

人間じんかんにう生まれて "つないがりを生きよう" 312

災害は忘れたころにやってきます、7月12日、未明から線状降水帯が発生し、13日未明にかけて土砂崩れ、浸水、家屋の押し潰れ等の災害が起きました。いつもお世話になっていた市議会議員さんが、南蟹谷地区で起きた土砂崩れに巻き込まれてしまいました。人々が寝静まっていたところに異変に気付かれ、避難誘導をしてくださっていたときのことでした。わたしたちは、いつ何時どのようなことが身に

一七三三年 親鸞誕生(今年850年)
 一一〇一年 法然との出会い(今年822年)
 「雑行を棄てて本願に帰す」
 一二二四年 「教行信証草稿本完成」
 (今年849年)

降りかかるかわかりません。そのことを忘れないようにしようと思いました。
 7月は一人暮らしの方の困りごと相談で庭の草刈りをしました。ほっておいたら手に負えなくなり枝も処理しきれなくなるので少し手伝いをさせていただきました。日が照ったり、突然の雷雨に会ったり大変でしたが、なんとかこなしました。もしご用があればお手伝いできればと思います。気軽に声がけください。

8月真敬寺行事予定

- 6日(日) 平和の鐘 午前8時15分
 日曜学校 午前9時
 真宗教室 3 午後2時
 大経上巻のお話し①阿弥陀仏の心
- 7日(月) 正信偈の会 午後1時半
 同朋新聞拝読
- 9日(日) 平和の鐘 午前11時2分
- 15日(火) 平和の鐘 正午え12時
 総墓参り経 午前午後
- 17日(木) 定例聞法会 午前午後
 講師 馬川透流 さん

2日の日曜学校は、机を合わせて一つの花瓶を囲み、あじさいを描きました。
 2日午後の正信偈の会には広間の席が満席になるほどにお越し下さいました。
 7日は正信偈の会で、4人ほどで日頃の思いを語り合いました。
 28日は朝5時から暁天講座で立野寿さんの法話を聴聞しました。

祠堂経会の間書

立教開宗の意義

長谷顕文(はせあきふみ)さん

射水市布目沢万徳寺



今年は立教開宗800年の慶讃法要が京都の真宗本廟(東本願寺)で勤められました。立教開宗の年というのは、1224年に『教行信証(顕浄土真実教行証文類)』の草稿本(大まかな完成)を見た年であるからです。

『教行信証』の文章の中に「我が(今)、元仁元年……」と書いてあるので、その年をこの草稿本が書かれた年としています。この立教開宗の年は真宗の教団がこの年と定めているのであって、親鸞が自ら定めたものではありません。親鸞聖人は生涯にわたってこの本の加筆訂正をされています。

800年経ったということ、1年早いのですが、真宗本廟でも今年、慶讃法要が勤められたのであります。

それでは立教開宗とは何か、どういうことなのか？

「教えが教えとして立てられ、広く宗派が開かれる」という意味です。私はいまだ親鸞聖人が教えを立てられて浄土真宗が立てられたという風に聞いてきましたが、だんだん立教開宗(同時、同じ)ではなかったのでは

ないかと思うようになりました。「親鸞聖人が教えを立てた」という解釈では教えを立てた主体は、親鸞ということになります。果たしてそうなのでしょうか、私はあくまでも、真宗はお釈迦様によって立てられたのではないかと思えます。

もう少し深めますと、お釈迦様が立てられた「浄土を真の宗とする仏教」が親鸞によって公開(三世十方に)されたことを立教開宗と位置づけるのではないかと思いました。時も空間も超えて全人類全ての者にこの「浄土を真の宗とする仏教」が公開されたことで大きな意味があるのではないかと思えます。

「浄土真宗」という言葉は宗派の名前だと思ってしまうのですが、宗派の名前に止まらず、「浄土の真を宗とする仏教」がお釈迦様によって時も空間

も超えて公開されたことがこの開宗の言葉にあるのではないかと思えます。

「建仁辛の酉の暦(1201年)雑行を棄てて本願に帰す」と教行信証の後序には書かれてあります。ここには親鸞聖人が師の法然上人に出会った年とその意味が書かれてあるのだと思います。1201年は親鸞聖人29歳で苦しみの中から比叡山延暦寺を下られ、吉水の法然上人に出会われた年です。

親鸞聖人は、法然上人に出会ったことよって雑行を棄てて本願に帰すことが自分の中に起こったと書かれてあるのです。人間法然と法然の説かれる仏教に出会い、「本願念仏の教え」に出会われたのです。

そしてこの「本願念仏」とは厳密に

は「南無阿弥陀仏が私に成就し、南無阿弥陀仏がすくいなのだ」という仏教です。法然上人のころにも比叡山では多くの修行が行われていました。念仏とは多くの修行の中から阿弥陀如来が私たちのために選択した行です。私達、人間が選んで行っているものはなく、如来の本願によって選ばれた修行であります。

「浄土真宗ってどんな仏教」と聞かれて、「南無阿弥陀仏がすくいです」と答えたらだいたいの人が「なにそれ、そんな頼りないものか、そんな簡単なことで良いのか」と言われます。坊さんと言えれば厳しい修行をしているとか、滝に打たれているとか、火の上を歩くとかの修行をしていると思われていましたが、「南無阿弥陀仏だけ」と言いますと「えー」と驚き

「楽でよいな!」といわれます。

私たちの価値観から言いますと、こんな頼りないことはないのではないかと思います、「南無阿弥陀仏」いうただけでいいなんて、そんな都合のいいものはないやろうと。

しかしそれは私たちの価値観による判断です。間違えてはならないのは、念仏は私たちが選んだ行ではないのです。阿弥陀さんが選んだ本願の行なのです。こういうおさえをされた法然上人に出会われたのが親鸞聖人だったのです。



ハスの葉陰に…

教団は1224年52歳『教行信証』の草稿本が書かれた年を立教開宗としています。

しかし私は、法然上人との出会いがあった年、「雑行を棄てて本願に帰す」といわれた、1201年こそが親鸞聖人の立教開宗の年だったと思います。

親鸞聖人がこの世界に誕生されたのは、1173年平安時代の後半になりますが、この1201年29歳は念仏者としての親鸞の誕生の年でもあるわけで、私としては、この年が立教開宗の年だと思っています。(今年は822年になります)

実際のお話は YouTube で



8月の聞法会は

17日(木)午前9時半・午後1時半

講師は馬川透流さんです。

『教行信証』についてお話をさせていただきます。

馬川透流(ばがわとおる)さんプロフィール

真宗大谷派眞教寺住職。1961年南砺市生まれ。

真敬寺住職とは大学の同期生。

お寺はどなたでも来ていただけるところです。

お気軽にお誘いあわせてご聴聞ください。

井波別院巡回法座の7月17日は、数日前の豪雨がウソのような、晴れた、暑い暑い日でした。お参り下さった方々、どうもありがとうございました。

7月の日曜学校ではあじさいの花瓶の周りにこどもたちが集まって絵を描きました。同じものを見ても、どの花に目が行くか、どのように見えるかはひとりひとり違って、それを素直に表現できたことをうれしく感じました。

真宗学院で学んでいると、わかることよりわからないことのほうが増えていきます。浄土真宗とは？ 自己を問うとは？ 仏になるとは？ まだまだ勉強です。

南無阿弥陀仏

(坊守より)

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440
真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修
0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



shinkyouji.com

検索

